

山形美術館 令和3年度事業報告

概要

令和3年度の公益事業は、新型コロナウイルス感染症拡大防止にしっかり努めながら実施した。春に「木梨憲武展 TIMING 瞬間の光り」、夏に「国立西洋美術館巡回展 山形で考える西洋美術—〈ここ〉と〈遠く〉が触れるとき」、そして山形関係の企画として、秋に「近藤亜樹一星、光る」、冬に「霊地やまがた 一最上十三観音をたずねて—」を開催した。木梨憲武展を除く3事業は、「令和3年度文化庁文化芸術創造拠点形成事業」の助成を受けた「山形県文化芸術交流発信事業」として実施した。さらに山形県民の美術振興を図る3県展を、2年ぶりに揃って実施した。

収蔵品展事業においては、長谷川コレクション、服部コレクション、吉野石膏コレクションの作品を、テーマを設け年間を通して展示し、収蔵品の魅力を紹介した。また創作活動を行う個人・団体に対する17の展示施設貸与事業を行った。

そのほかキャンパスメンバーズ制度に継続して取り組んだほか、収蔵品の貸出し協力、大学生の実習生受け入れ指導を行った。

これら公益事業関連の展覧会総入場者数は87,016人となった。コロナ禍の始まった昨年度30,202人と比較すると、企画展事業と収蔵品展事業で43,980人の増加、展示施設貸与事業で12,834人の増加、合計で56,814人の増加となり、一昨年度の水準に回復した。

収益事業は、1階の喫茶室「ブローニュー」の営業、およびミュージアムショップでの企画展や収蔵品展に合わせたグッズの取り扱いを実施した。

法人運営および施設管理では、収蔵品管理のほか、施設の長期改修計画の方向性を検討した。

1. 公益事業

①企画展事業

山形県民はじめ広く美術愛好者に、国内外の優れた美術作品および関連資料を鑑賞する機会を提供する以下の事業を行った。

4月2日—5月9日 木梨憲武 TIMING 瞬間の光り

1980年に「とんねるず」を結成後、タレントや歌手活動のほか、大胆な色使いや自由な発想で絵画などを制作する木梨憲武の個展を開始した。「Flower」「フェアリーズ」など6つのテーマを設け、新作を中心に絵画やドローイング、オブジェなど約200点を展示。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、関連イベントは実施せず、AR(仮想現実)を活用した作品や展示室の撮影を可能とするなど、来館者が自由に楽しめる工夫を行った。独自の世界観で表現された作品は、コロナで塞ぎがちな気持ちを明るくし、これまで美術館に馴染みのなかった人を含む幅広い世代の好評を博した。(入場者 27,637人)

7月17日—8月27日 令和3年度国立美術館巡回展 国立西洋美術館コレクションによる

山形で考える西洋美術—〈ここ〉と〈遠く〉が触れるとき

国立美術館が実施する「国立美術館巡回展」として、国立西洋美術館のコレクションを展示した。第1章では、山形市出身の彫刻家・新海竹太郎とロダンの関連、第2章ではルネサンスから20世紀までの松方コレクションを含む西洋美術館の優品、第3章では山形関係の作家や吉野石膏コレクションの作品を並べて対

比し、絵画や彫刻、版画や資料など約160点を展示した。関連事業として7月24日新藤国立西洋美術館研究員によるスライドトーク、7月31日修復家や大学教授らによるクロストーク、8月9日山形大学名誉教授・元木幸一氏講演会、8月21日日本県出身で元国立西洋美術館チーフ・キュレータ幸福輝氏の講演会などを開催。感染症拡大によるイベントの中止などがあったが、SNSや動画配信により展覧会の魅力を発信するなど、山形からの視線で西洋美術の新たな魅力を発見する機会とした。（入場者 15,601人）

9月4日-9月20日 第76回山形県総合美術展

山形県の美術振興と美術家のレベル向上を目指して毎年開催している県内最大の公募展。日本画、洋画、彫刻、工芸の4部門に搬入された553点を、藤田志朗(日本画)、遠藤彰子(洋画)、池田秀俊(彫刻)、赤沼潔(工芸)の4氏が厳正に審査。会場には、入賞・入選、審査員、委嘱、無鑑査の作品、東北芸術工科大学教員の招待作品、名誉会員らの遺作など、合わせて462点を展示した。出品者の幅広い年齢層と表現方法、若い世代の斬新な感性やベテランの高い技術が光る作品が目立った。第63回こども県展には、県内の園児、小中生から11,615点の応募があった。群馬大学教授・林耕史氏が、技術の巧拙ではなく「描きたい」という意思が反映されている点を基準に審査し、3階に入賞・入選1,011点を展示。2年ぶりの開催となった本展は、幅広い多くの県民を対象とした秋の芸術シーズンの到来を告げるものとなった。（入場者 6,402人）

9月25日-10月10日 第46回山形県総合書道展

山形県内および出身者の書家、書道愛好家から広く作品を公募し開催した。今回は、漢字・かな・調和体・近代詩文・少字数・刻字・篆刻の7部門に、高校生から90代までの幅広い年代の書家・書道愛好家から、一般公募233点、役員・会友276点を合わせ509点の作品が搬入された。県内の書家・鈴木千岳、青柳祥雲、植松龍祥、高橋嶽崖、小野翠風、齋藤湖舟、工藤江苑、小池逢花、井上清扇、横尾千鶴の10氏による審査の結果、県知事賞など入賞13点、奨励賞15点、褒状30点、入選170点が厳正に選ばれた。会場には入賞・入選作に審査員、役員、会友の書作を加え461点を展示。墨の濃淡やメリハリのある筆遣い、豪快さや緻密さの表現など、充実した作品が目立った。10月2日に高橋嶽崖氏、10月9日に小池逢花氏による作品解説会を実施し、若年層や書道初心者らに書道の魅力や作品の良さを広める機会とした。（入場者 2,037人）

11月5日-11月23日 近藤亜樹一星、光る

本県を拠点に活動する注目の若手アーティスト・近藤亜樹の美術館で初となる個展を開催した。自然豊かな山形での生活の中で描かれた新作、東日本大震災などを題材とした東北芸術工科大学時代の作品、花や母子など日常の幸せを描いたシリーズなど、48点を展示。展覧会タイトルにもなった《星、光る》は、明るい色彩と力強い筆致によって命の力強さがダイナミックに表現された幅5.5メートルの大作で、来館者はその圧倒的なスケールに引き込まれていた。コロナ禍の状況にもかかわらず展示室の作品撮影を可能としたほか、SNSや展示風景の動画配信、新聞紙面での連載によって周知を図るなど、近藤亜樹の光に溢れる絵画世界を多面的に紹介した。（入場者 3,195人）

12月15日-2022年1月23日 霊地やまがた一最上三十三観音をたずねて一

2022年に開催予定の「最上三十三観音子歳連合ご開帳」に先立ち実施した。大江町出身の写真家・山本やす子氏による写真と、新庄市出身の洋画家・近岡善次郎(1914-2007)による「最上三十三観音」連作スケッチや油彩画、上ノ山観音所蔵の《三十三観世音曼荼羅》など、203点を展示した。会期中の関連イベントとして12月16、17日山本氏によるギャラリートーク、12月18日山本氏による講演会、1月8日上ノ山観音別当・鎌上宏氏による新春講話を開催。また1月22日、県民共済の寄付による社会貢献基金事業「山形交響楽団メンバーによる弦楽四重奏」を実施。山形の精神文化が根づく最上三十三観音の多彩な魅力を紹介した。

(入場者 2,534人)

2月24日-3月21日 第56回山形県写真展

山形県写真展は、県内の写真愛好家の質的向上と相互交流を目的に1967年に第1回展を開催し、今年度で56回を迎えた。本展には、13歳から93歳までの444名から2,037点の一般公募作品が搬入。写真家の鈴木一雄氏による2日間にわたる審査によって、入賞12点、準入賞10点、努力賞10点、入選447点が選ばれた。会場には公募作品に加え、審査員と無鑑査作品、物故無鑑査の追悼作品など、計508点を展示。四季折々の風景や鉄道、家族写真など、モチーフや構図に独創性の溢れる多彩な写真が並んだ。

(入場者 4,322人)

②収蔵品展事業

山形美術館では、日本の美術、山形関係の美術、フランス近代美術の3分野について、美術作品および関連資料の収集と調査研究を進めている。本年は、1階第1および第2展示室において、長谷川コレクション、服部コレクション、吉野石膏コレクションを、テーマを設け通年にわたって紹介した。

フランス近代絵画の魅力 服部コレクション・吉野石膏コレクション

印象派を中心に、バルビゾン派からエコール・ド・パリまで、多様な作品が揃う「吉野石膏コレクション」と、現代フランス絵画の巨匠たちを中心とした20世紀フランス美術の「服部コレクション」を通して、19世紀から20世紀後半までのフランス絵画の多彩な展開を核とした展示を行った。印象派、ポスト印象派、フォーヴィスム、キュビズム、抽象、シュルレアリスム(超現実主義)など、新しさを追求した近代美術の展開と戦後フランス絵画の伝統と革新が織りなす豊穡な響きあいを紹介した。

4月2日-7月11日 吉野石膏コレクション 印象派の輝き

モネ、シスレー、ルノワール、ピサロなど28点

7月17日-8月27日 印象派からエコール・ド・パリ

ピサロ、セザンヌ、ファン・ゴッホ、マルケ、ヴラマンクなど31点

9月4日-10月31日 吉野石膏コレクションの人物・肖像

コロー、ミレー、クールベ、マネ、ピカソ、シャガールなど22点

11月5日-12月5日 吉野石膏コレクションの風景・静物画

コロー、ブーダン、ピサロ、シスレー、ヴラマンク、ユトリロなど31点

12月7日-1月30日 吉野石膏コレクション名作選

マネ、セザンヌ、モネ、カンディンスキー、ピカソ、シャガールなど31点

2月2日-3月27日 吉野石膏コレクション名作選 Part2

シスレー、ヴラマンク、ルノワール、マティス、ブラックなど31点

紅花商人ゆかりの名品 長谷川コレクションをたのしもう

紅花商人ゆかりの二つの長谷川家から寄贈を受けた全292点で構成される日本美術「長谷川コレクション」を紹介する展示を行った。江戸から明治にかけての多彩な作品を、下記7つのテーマに沿って通年にわたり紹介した。

4月2日-5月30日 花鳥風月をたのしむ

渡辺華山《溪澗野雉図》、川合玉堂《細雨》(5/9まで公開)など14点

6月1日-7月11日 紅花のやまがた

横山華山《紅花屏風》など17点

7月17日-8月27日 奥の細道への憧憬

松尾芭蕉《出羽三山短冊》、与謝蕪村《奥の細道図屏風》ほか①長谷川家が所蔵する高村光太郎《牛の詩》など18点

9月4日-10月31日 文人画の趣

田能村竹田《浅絳山水図》、高橋草坪《竹筍蜻蜓図》など12点

11月5日-12月5日 魅惑の神秘と山水世界

狩野常信、岡田半江《米法山水図》など19点

12月7日-1月30日 新年を飾る吉祥画

熊代熊斐《松鷲梅孔雀図屏風》、谷文晁《慈母観音図》など11点

2月2日-3月27日 江戸～明治の大家

長沢芦雪《富士見西行図》、谷文晁《熊野舟行図》など14点

収蔵品展事業による、本年度新収蔵品は寄贈7件である。米沢市出身の美術評論家・今泉篤男が旧制山高時代に描いた油彩画「監獄の外郭」、山形市出身で現代作家として活躍する梅津庸一の陶作品「二重フィルター」などを受贈した。今期末での寄託品を除く収蔵品件数は、基本財産収蔵品の一般正味財産(購入)505件、指定正味財産(寄贈)1,173件、合計1,678件となった。

③展示施設貸与事業

美術に関する創作活動を行っている個人および団体に対し、当館の展示室と展示用備品を貸与する事業を行った。本年度は、山形県水彩画会展、春光会展、日展山形会展、山形県民ふれあい書道展、示現会山形展、櫻墨書院展、運命 龍玄とし ART EXHIBITION 山形、山形市芸文協総合展、毎日書道展東北山形展、読売書法展東北展、山形県医家美術展、北展、墨華会書道展、東邦書道会全国展、誠筆書展、山形大学地域教育文化学部文化創生コース卒業研究展、山形デザイン専門学校卒業進級制作展など、17の展覧会を開催した。

④その他

収蔵品を活用した事業や指導など以下の事業を行った。

1. 山形美術館キャンパスメンバーズ制度の実施

学校教育等における当館の有効活用を目的に、平成29年度より設けた「山形美術館キャンパスメンバーズ制度」を本年度は11校が利用。常設・企画展の常時入館無料のほか、授業での解説指導等を実施した。

2. 収蔵品館外貸出による他機関への協力

「動物の表現に見る美」(山寺芭蕉記念館)「北斎づくし」(凸版印刷)「絵になる自然～生きとし生けるものへの賛歌～」(秋田市立千秋美術館)「開館20周年記念 動物の絵 日本とヨーロッパ」(府中市美術館)「紅と藍—くらしを彩る—」(山形県立博物館)「やわたで愛された地域のたからもの～つながる文化財～」(八幡市立松花堂美術館)「Technicolor's—吉野石膏コレクション meets コンテンポラリー・アート vol.1」(吉野石膏株式会社)「ミロ展—日本を夢みて」(Bunkamura ザ・ミュージアム、愛知県美術館、富山県美術館)など、他機関の企画展に対し収蔵品の貸出協力を行った。

3. 博物館実習生の受け入れと指導

博物館実習は、東北芸術工科大学7名、鶴見大学1名、計8名をのべ6日間ずつ受け入れ、美術館の機能と業務概要、資料の保存管理、地域における美術館のあり方などについて指導した。

4. 美術教育普及活動への協力

東北芸術工科大学芸術学部総合美術コースの松村泰三准教授と同コース3年生らが吉野石膏コレクションの鑑賞ガイドシートを作成。多様な視点から作品を楽しむツールとして展示室に設置した。

5. 「山形美術館で会いましょう」の連載

山形新聞の文化欄(毎週木曜日)に、コラム記事「山形美術館で会いましょう」を分担執筆し、美術館の企画展や収蔵品展の話題などを紹介した。

2. 収益事業

1 階の喫茶室「ブローニュ」において、コーヒーや限定ランチの提供により、鑑賞者の憩いの場となるよう努めた。また美術関係の書籍やグッズを販売するコーナーでは、展覧会図録や関連グッズなどの販売物を引き続き取り扱った。

3. 法人運営および施設管理

新型コロナウイルス感染症対策を実施するほか、収蔵品や企画展開催中の作品管理のため温湿度の管理のほか、今後の施設の維持活用のための長期改修の方向性を検討した。

4. 成果と課題

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止に対応しながら、親しみやすい企画や西洋美術の流れを山形からたどる企画、山形を拠点に活躍する若手作家や山形の世界文化を紹介する企画など、さまざまな分野の企画展を実施した。さらに県内の美術愛好家を対象とする3県展に加え、長谷川コレクション、服部コレクション、吉野石膏コレクションなどの収蔵品の魅力を紹介するテーマ展など、コロナ禍の中、幅広い層が来館するなど、総じて好評のうちに実施することができた。

PRについても、ホームページ、フェイスブックやツイッターに加え、作品解説や展示の動画配信によって、企画展やイベントの情報を発信し、山形美術館の事業の周知に努めた。引き続き地域機関との連携を図り、効果的な広報活動に努めていく。11月3日には山形美術館のこれまでの活動により齋藤茂吉文化賞を受賞した。今後とも優れた芸術に触れることのできる芸術創造拠点として、地域の文化振興の役割を果たすよう努めていく。

令和3年度 開催展覧会と入場者数

[企画展]

事業名	期間	入場者数					主催、共催、後援など	備考
		一般	高・大生	小・中生	会員・招待	計		
木梨憲武展 TIMING 瞬間の光り	4月2日～ 5月9日	20,681	667	2,203	4,086	27,637	山美、山新、山放、山形県、県生涯学習文化財団、県教委、県芸術文化協会、山形市、市教委、市芸術文化協会、コッカ、ソニー・ミュージックエンタテインメント、産経新聞社、imura art gallery	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開幕式および関連イベントは開催しなかった。
令和3年度国立美術館巡回展 国立西洋美術館コレクションによる 山形で考える西洋美術 ー<ここ>と<遠く>が触れ る と	7月17日～ 8月27日	11,194	1,003	605	2,799	15,601	国立西洋美術館、山形美術館、山形県、山新、山放、県生涯学習文化財団、県教委、県芸術文化協会、山形市、市教委、市芸術文化協会	7月17日に開成式と、国立西洋美術館の新藤淳主任研究員ギャラリートークを実施。7月24日新藤氏スライドトーク、31日大分大学教授田中修二氏(リモート参加)、仏国認定修復家藤原徹氏、新藤クロストーク、8月9日山形大学名誉教授元木幸一氏講演会、8月21日元国立西洋美術館チーフキュレーター幸福輝氏講演会を開催。8月8日の現代作家梅津庸一氏と新藤氏によるイベントは新型コロナウイルス感染症を考慮し中止。8月21日から10月31日まで、当館YouTube公式チャンネルで展覧会解説動画を公開。
第76回山形県総合美術展	9月4日～ 9月20日	3,735	197	520	1,950	6,402	山美、山新、山放、県美術連盟、山形県、県生涯学習文化財団、市教委、県芸術文化協会、県造形教育連盟、べんてる株式会社	藤田志朗(日本画)、遠藤彰子(洋画)、池田秀俊(彫刻)、赤沼潔(工芸)の4氏による審査。第63回こども県展を併催。
第46回山形県総合書道展	9月25日～ 10月10日	490	53	125	1,369	2,037	山美、山新、山放、県総合書道会、山形県、県生涯学習文化財団、県書道連盟、県教委、山形市、市教委、県芸術文化協会	鈴木千岳、青柳祥雲、植松龍洋、高橋嶺崖、小野翠風、齋藤湖舟、工藤江苑、小池逢花、井上清扇、横尾千鶴ら10氏による審査。10月2日高橋嶺崖氏、9日小池逢花氏ギャラリートーク、10月10日授賞式を開催。
近藤亜樹 一星、光る	11月5日～ 11月23日	1,537	261	211	1,186	3,195	山美、山新、山放、山形県、県生涯学習文化財団、山形市、東北芸術工科大学、ShugoArts	展示風景動画を当館YouTube公式チャンネルで公開。11月23日近藤氏初監督映画「HIKARI」上映。
霊地やまがた 一最上三十三観音 をたずねて	12月15日～ 1月23日	1,457	365	17	695	2,534	山美、山新、山放、山形県、県生涯学習文化財団、山形市、最上三十三観音札所別当会	12月16、17日写真家・山本やす子氏ギャラリートーク、18日同氏講演会開催。1月8日上ノ山観音別当・鎌上宏氏講話、22日山形交響楽団メンバーによる弦楽四重奏コンサートを開催。
第56回山形県写真展	2月24日～ 3月21日	1,508	165	53	2,596	4,322	山美、山新、山放、県写真連盟、山形県、県生涯学習文化財団、県教委、山形市、市教委、県写真材料商組合	2月12、13日写真家・鈴木一雄氏による審査。鈴木氏による審査講演動画を当館YouTube公式チャンネルで公開。3月21日授賞式を開催。
企画展 計(A)		40,602	2,711	3,734	14,681	61,728		

[収蔵品によるテーマ展]

フランス近代絵画の魅力 服部コレクション・吉野石膏コレ クション	4月2日～ 3月27日	3,016	492	286	3,996	7,790	山美、山新、山放、山形県、県生涯学習文化財団、山形市	
紅花商人ゆかりの 長谷川コレクション を楽しまう								
収蔵品によるテーマ展 計(B)		3,016	492	286	3,996	7,790		

令和3年度 開催展覧会と入場者数

館主催展計 (C=A+B)		43,618	3,203	4,020	18,677	69,518		
---------------	--	--------	-------	-------	--------	--------	--	--

[展示施設貸与事業など]

事業名	期間	入場者数					主催、共催、後援など	備考
		一般	高・大生	小・中生	会員・招待	計		
春光会展	5月12日～5月16日	481	-	-	-	481	春光会	
山形県水彩画会展	5月12日～5月16日	635	-	-	-	635	山形県水彩画会	
日展山形会展	5月19日～5月30日	1,234	49	-	914	2,197	日展山形会、山形新聞・山形放送	
山形県民書道展	6月24日～6月27日	605	23	46	680	1,354	山形県民書道会	
示現会山形展	6月30日～7月4日	170	47	24	524	765	示現会、示現会山形支部	
樺墨書院展	7月7日～7月11日	1,121	-	-	-	1,121	樺墨書院	
運命龍玄としARTEXIBITION山形	10月12日～10月17日	1,525	-	-	-	1,525	山形市、市教委、市芸術文化協会	
山形市芸術協会総合展覧会	10月13日～10月17日	2,626	-	-	-	2,626	山形市、市教委、市芸術文化協会	
毎日書道展東北展	10月20日～10月24日	277	15	127	1,347	1,766	毎日新聞社、毎日書道会	
読売書法展東北展	10月27日～10月31日	203	17	53	850	1,123	読売新聞社、読売書法会	
山形県医家美術展	11月18日～11月22日	810	-	-	-	810	山形県医師会	
北展会員会友展・公募展	11月26日～12月1日	652	-	-	-	652	東北現代美術協会	
墨華会書道展	12月3日～12月5日	661	-	-	-	661	墨華会	
東邦書道会全国展	12月10日～12月12日	505	-	-	-	505	東邦書道会	
誠筆書展	1月30日～2月2日	550	-	-	-	550	誠筆会	
山形大学地域教育文化学部地域教育文化学科文化創成コース卒業研究作品展	1月29日～2月2日	409	-	-	-	409	山形大学地域教育学部造形芸術コース	
山形デザイン専門学校卒業進級制作展	2月14日～2月16日	318	-	-	-	318	山形デザイン専門学校	
展示施設貸与事業計(D)		12,782	151	250	4,315	17,498		

全展覧会 総計(E=C+D)		56,400	3,354	4,270	22,992	87,016		
----------------	--	--------	-------	-------	--------	--------	--	--

令和3年度新収蔵品リスト

令和4年3月31日現在

○寄贈

作者名	作品名	制作年	材質・技法	寸法(cm)
今泉篤男	監獄の外郭	1922年	キャンヴァス・油彩	45.5×53.0
今泉篤男	少女(仮題)		キャンヴァス・油彩	33.0×24.7
梅津庸一	再活性	2020, 2021	紙に水彩、アクリル、 インク、エナメル、 油彩	31.7×25.1
新関国臣	男性像		石膏着色	40.2×28.1× 32.4
梅津庸一	海底に沈んだ空母加賀の 部品	2020	陶	5.8×26.0× 15.2
梅津庸一	二重フィルター	2020-2021	陶	29.8×23.0× 13.0
梅津庸一	酸性雨	2021	陶	23.0×20.0× 22.0

※以上の美術品7件を基本財産収蔵品(不可欠特定財産)とする。

令和3年度収蔵品貸出一覧

作 者 名	作 品 名	借受館又は借受者	貸 出 事 由	貸 出 期 間
与謝蕪村	奥の細道図屏風	府中市美術館	与謝蕪村「ぎこちない」を芸術にした画家	2/27-5/20
円山応挙	雪中竹梅狗子之図 など8点	山寺芭蕉記念館	動物の表現に見る美 -あつまれどうぶつ-	4/23-8/1
葛飾北斎	富嶽三十六景(46点) 富嶽百景(102点)	凸版印刷株式会社	北斎づくし	7/8-9/30
中川哲哉	軸 盆 など3点	天童市美術館	寄贈記念展 中川哲哉工芸展	8/11-9/28
高久靄崖	青緑山水図 など2点	山寺芭蕉記念館	芭蕉と江戸時代 -芭蕉文学を生んだ江戸文化	9/9-12/3
川合玉堂	細 雨 など2点	秋田市立千秋美術館	絵になる自然 ～生きとし生きる ものへの賛歌～	9/10-11/12
ミレー	バター作りの女 など3点	府中市美術館	開館20周年記念 動物の絵 日本とヨーロッパ ふしぎ・かわいい・へそまがり	9/10-12/7
横山華山	紅花屏風	山形県立博物館	紅と藍-くらしを彩る-	9/22-10/24
千利休	茶 杓	八幡市立 松花堂美術館	やわたで愛された 地域のたからもの ～つながる文化財～	10/5-12/14
モネ	サン=ジェルマンの森 の中で など10点	吉野石膏株式会社	Technicolor's -吉野石膏コレクション meets コンテンポラリー・アート vol.1	11/2-12/2

令和3年度収蔵品貸出一覧

太田大仙子	雪景山村 山 図里	鶴岡アートフォーラム	庄内ゆかりの美術家たち17 昭和の日本画家 太田大仙子・ 真島元枝・成澤翠映	2022.1/21- 3/10
ミロ	シウラナ村	Bunkamura ザ・ミュージアム、愛知県美術館、富山県美術館	ミロ展－日本を夢みて	2022.1/26- (貸出中)